

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成30年 6月29日現在

機関番号：34415

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2016～2017

課題番号：16H07428

研究課題名(和文)南アジアの都市における食肉をめぐる社会関係の文化人類学的研究

研究課題名(英文) A Cultural Anthropological Study of Social Relationships Concerning Meat in South Asia

研究代表者

中川 加奈子 (Nakagawa, Kanako)

追手門学院大学・社会学部・准教授

研究者番号：80782002

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、グローバル市場への包摂が進む南アジア都市社会において、従来カーストや民族、及び宗教に規定されると見なされがちであった食肉をめぐる社会関係を文化人類学的に再考することを目的とした。研究方法として、ネパールでカーストに基づく役割として水牛の食肉を扱う「カドギ」の人びとを中心に、南アジアの広い地域で牛、ヤギや鶏の食肉を扱うムスリム、豚や牛の食肉を扱うチベット系民族、そして日本のネパール料理店での社会調査に基き、近年のグローバル市場経済への包摂を背景とした食肉業従事者のカースト間、民族間、宗教間における日常的な交渉のあり方を、経済領域と文化領域を横断しながら民族誌的に描き出した。

研究成果の概要(英文)：This research examined the social relationships concerning the meat in South Asian cities. In the South Asian context, the social relationships on meat had been regarded to be restricted in norms of caste, ethnicity and religions especially pure/impure concepts of Hindu and halal/haram concepts of Islam. In contrast, I considered the social relationships on meat ethnographically, and show the bottom up process of creating local rules and norms through the everyday commercial interactions beyond caste, ethnic and religious borders.

研究分野：文化人類学

キーワード：南アジア 食文化 都市 社会関係 肉食文化 グローバル化 カースト ハラル

## 1. 研究開始当初の背景

南アジアでは、インドを中心として民主化や市場開放などに伴う政治経済的変動が著しく(近藤 2015)、これに伴うローカルな価値・規範の変動を捉えた研究(三尾 2015)がみられる。また、王制廃止を含む劇的な体制転換を迎えたネパールにおいては、民主化とそれを支える「権利」「自由」等の普遍的価値についての研究(Fujikura 2007, Gellner and Karki 2007)や、民族アイデンティティやカースト・アイデンティティと社会運動の絡み合いについての研究(Gellner 2009)など、政治的変動とローカルな価値体系の変容との連関を捉える研究が見られる。これに加えて、南アジアのローカル市場がグローバル市場に刷新されていく様相を包括的に描いた研究もみられるようになった(Rankin 2004)。しかしながら、モノの流れのグローバル化と、それに伴うローカルの人々の日常的な商実践を接合する視点、および経済活動と文化的価値変動の相互的な連関関係に焦点を当てた動態分析は十分になされていない。また、南アジア都市社会に生きる低層民の民族誌として清掃に携わる人びとの研究の蓄積(Searle-Chatterjee 1979, 篠田 1995)は見られるが、家畜の仲買・屠畜・肉売りなどを含めた食肉に携わる人びとに関する民族誌は世界的にみてもほぼ皆無である。

こうした学術的背景をもとに、申請者はこれまでの研究において、カトマンズに生きる肉売りカースト「カドギ」の社会で通算約5年におよぶ長期的な調査を実施し、グローバル市場経済への包摂や政治体制の移行を背景に、カドギたちがカーストにどのように向き合っているのかを検討した。具体的には、これまで国家により「低カースト」と規定されたカドギたちが、日常的な商実践を介してカーストという枠組みを自分たちにひきつけながら読み替え、流用し、彼らの生の肯定

の拠点として再創造していることを実証的に明らかにした(中川 2016)。これまでの研究を進めるなかで申請者は市場で築かれる社会関係とそこから創出されるルールや規範が、カーストだけに留まらず、民族や宗教も越境する契機に開かれていることを目の当たりにしてきた。たとえば、ヒンドゥーのカドギたちは顧客層を広げるためにムスリムを屠場で雇用し「ハラール」をさせている。また、公設の屠場がないネパールでは、屠場は民家の軒先に設けられることが多いが、そこにチベット系の輸出業者が直接出向いて買い付けをしている姿が確認できる。こうした市場を介した民族や宗教を越えた交渉やそこから創発される展開を、カトマンズという一つの都市やカドギという一つのカーストに限らず、南アジア都市の流動性のなかで理解していくことが必要であると考えるに至ったのである。

よって、本研究では、これまでの研究を発展的に継承する形で、対象を南アジアの広域で活躍するムスリム商人、チベット系移民や、日本の南アジア系移民も含む形で拡大し、市場での交渉のなかでいかに文化が接合し変容していくのかを、カーストにとどまらず民族、宗教など、南アジア社会に広く横たわるトピックに議論を進化させ、より包括的に南アジアの都市社会の重層性や変動のあり方の解明に貢献することを目指すものである。

### 【参考文献】

- 近藤則夫, 2015, 『現代インド政治：多様性のなかの民主主義』名古屋大学出版会  
三尾稔, 杉本良男編, 2015, 『現代インド6 環流する文化と宗教』東京大学出版会  
Fujikura, Tatsuro, 2007, "The Bonded Agricultural Laborers' Freedom Movement in Western Nepal" *Political and Social Transformations in North India and Nepal*, Ishii, Hiroshi, Gellner, David N. and Nawa, Katsuo (eds), Delhi: Manohar.  
Gellner, David N. and Karki, Mrigendra Bahadur, 2007, "The Sociology of Activism in Nepal: Some Preliminary Considerations" *Political and Social Transformations in North India and Nepal*, Ishii, Hiroshi, Gellner, David N. and Katsuo, Nawa (eds), Delhi: Manohar.  
Gellner, David N. (eds), 2009, *Ethnic Activism and Civil Society in South Asia*, India: Sage Publications.  
中川加奈子, 2016, 『ネパールでカーストを生きぬく：供犠と肉売りを担う人びとの民族誌』世界思想社

Rankin, Katharine Neilson, 2004, *The Cultural Politics of Markets*, London: Pluto Press.  
Searle-Chatterjee, M. 1979 *The Polluted Identity of Work: A Study of Benares Sweepers*, in Wallman, S. ed., *Social Anthropology of Work*. Academic Press INC.  
篠田隆, 1995, 『インドの清掃人カースト研究』, 春秋社.

## 2. 研究の目的

本研究では、グローバル市場への包摂が進む南アジア都市社会において、従来カーストや民族、及び宗教に規定されると見なされがちであった食肉をめぐる社会関係を文化人類学的に再考する。そうすることで、グローバル市場と不浄観や宗教的タブーを含む南アジア的な価値観との相克を時間軸・空間軸で立体的に理解していく。具体的には、ネパールでカーストに基づく役割として水牛の食肉を扱う「カドギ」の人びとを中心に、南アジアの広い地域でヤギや鶏の食肉を扱うムスリム、ネパール・インドの一部地域で豚や牛の食肉を扱うチベット系民族、及び日本の南アジア系移民コミュニティを対象とし、近年のグローバル市場経済への包摂を背景とした食肉業従事者のカースト間、民族間、宗教間における日常的な交渉のあり方を、経済領域と文化領域を横断しながら重層的に描き出す。

具体的に、本研究では、南アジアの都市において食肉が市場化されることに伴うアクターの多様化過程とアクター間に見られる独自の行動規範や共同性の創出過程を下記の通り時間軸／空間軸で明らかにする。

### 〔 〕時間軸からの分析

本研究では、食肉業組合や商工会議所の会報および統計資料、各種法令などの文献調査、聞き取り調査を基に、ネパールおよびインドの食肉市場がどのように形成されてきたのかを、カースト制度や民族範疇、世俗化に関する政治的動向を対照させつつ概観を行う。その際、ネパール語の歴史文書を保有する研究機関、および儀礼への供物を管理する団体（グティサンスタン）との信頼関係をすでに築いているカトマンズでは、遡れる限りの時

間軸で供犠獣の調達に関する資料の収集・分析にあたる。

時間軸からの分析を通して、(1) ネパール及びインドの食肉市場の概要とその形成過程、(2) 市場化された肉をめぐる政治・社会的なアクターの動態、(3) 儀礼用の肉をめぐる経済的アクターの動態を明らかにする。

### 〔 〕空間的側面からの分析

本研究では、食肉流通網の拡大により、肉がカーストや民族、宗教や、時に国境を越えて流通するようになったことを受けて、食肉に関するアクター間のネットワークがどのように構築されるかについて、ネパールおよびインドの経済構造の変化を対照させながら分析を行っていく。

主にインド／ネパールの国境沿いの家畜市や、デリー、コルカタ、カトマンズの肉屋の店頭、食料品の露店が集まる市、及び日本の南アジア系移民コミュニティにおいて、参与観察を実施する。空間的側面の分析からは、(1) グローバル市場を介した異なった文化背景を持つ他者との関係性の構築のあり方、(2) 不浄観などの南アジア的価値観とグローバルに普遍的な価値観との相克の様相が明らかになるのではないかと考える。

## 3. 研究の方法

本研究は、主に「文献研究」、「現地調査」、「理論的検討」に基づいて実施される。「文献研究」は、a)都市人類学・経済人類学におけるマテリアリティ、交換、宗教、民族間関係に関する研究、b)農学、経済学における食肉・屠畜研究、c)南アジア地域研究におけるカースト論、イスラム研究を中心としつつ隣接分野の成果を取り入れながら本研究課題を深化させる。

「現地調査」は、申請者がこれまで研究をすすめてきたネパールの首都カトマンズに加え、インドで冷凍肉の輸出入の拠点となって

いるコルカタ、そして、日本の南アジア系移民社会において行う。

「理論的検討」としては、隣接諸分野との比較検討を行い、文化人類学に留まらず農学や経済学等の関連学会や研究会で報告し、南アジアの食肉論について学際的な考察を行い、本研究課題に関連する先端的な研究を行っている海外の研究者と国際学会およびシンポジウムで意見交換することを通して、グローバル化に伴うローカルな価値体系の動態に関する学際的な視座を構築し、長期的には研究成果の英文での学術書出版を目指す。

#### 4. 研究成果

本研究では、南アジアの都市において食肉が市場化されることに伴うアクターの多様化過程とアクター間に見られる独自の行動規範や共同性の創出過程を時間軸/空間軸で検討した結果、次のことが明らかになった。

##### I ネパールの民主化・市場化に伴うカースト認識の変容の分析

食肉加工をカースト役割とするカドギのカースト団体による60年間の活動史をもとに、カースト認識とその変化を分析した。当初は社会奉仕団体として活動を開始したこの団体は食肉の市場化を経て職業団体に、さらには自らを先住民と定義づけカースト的序列の外存在であると訴える市民団体としてその役割を変化させており、これに対応する形でカースト認識のあり方も変化していることを指摘した(図書)。

##### II ネパール食肉の近代化プロセスの調査・分析

ネパールでの現地調査やメディアで見られる言説から、供犠儀礼と結びついていた食肉が市場での商品としての価値を獲得していくプロセスと、そこでのアクター間の関係性につ

いての分析を進め、研究会や国際会議にて公表した(学会発表)、(学会発表)。

##### 南アジア都市における肉食文化に関する比較民族誌的研究

調理や家計を担う女性の役割に焦点を当てて南アジアの食卓の近代化を検討し、特に低カーストによる家族経営の食肉小売店において、女性の自立や近隣のコミュニティを巻き込んだ親密圏の形成が進んでいる様相を報告した(学会発表)。

これまで調査していたネパールに加えて、牛肉(水牛肉)輸出量が世界一となったインドの肉食文化に関する調査を実施した。コルカタの現地調査に赴き、コルカタ市役所と民間企業が官民共同で経営している輸出用冷凍水牛肉の屠場を見学しそこでの人びとの相互関係についての情報を収集した。また、経営者にハラール対応のあり方やインド全土の屠場との連携のあり方、東南アジアや中東イスラム諸国をターゲットとする今後のプランの詳細について聞き取りをした。これらの調査により、官民の連携のあり方、また近代化が進んでいる分野(水牛肉)とそうでない分野(牛肉)の違いなど、コルカタのみならずインド全体の食肉市場の概観を得ることができた。これらの成果の一部はその他 の事典項目にて報告している。

さらに、日本のネパール料理店、インド料理店での調査に着手し、経営者にハラール対応のあり方やディアスポラコミュニティとの連携のあり方、エスニック・アイデンティティのあり方などについて情報収集を行なった。これらの調査により、エスニックな規範や食文化とグローバル市場との接合のあり方、また近代化が進んでいる分野とそうでない分野の違いなど、南アジア全体の食肉市場の概観に向けた分析を蓄積しつつあり、論文や研究報告の形で公開する準備を進めている。

## 5 . 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計1件)

Kanako Nakagawa, The Re-interpretation of Caste Mediated by Meat Market: Struggles of Caste Ordained Butchers in Nepal, *Panjab University Research Journal*, 43, 31-43, 2017

[学会発表](計4件)

中川加奈子、2016、食肉をめぐる価値の混交とソーシャルモビリティ：カトマンズの食肉加工業者を事例に、MINDAS2016年度第2回研究会、2016年10月、国立民族学博物館

Kanako Nakagawa, The Social Mobility Mediated by Meat Market: Struggles of Caste Ordained Butchers in Nepal, 2016年 RINDAS 国際会議「南アジアにおけるダリト問題」、2017年2月、龍谷大学深草キャンパス

Kanako Nakagawa, The Social Mobility Mediated by Marketization of Buffalo Meat: A Case Study from Caste-Ordained Butchers in Kathmandu Valley, The Himalayan Conference 2017, 2017年9月, University of Colorado, Boulder USA.

中川加奈子、職住分離とカースト認識の変容：カトマンズにおける肉屋の女主人たちの親密圏、2017年度 MINDAS 南アジアにおける社会変動と親密圏班第2回研究会、2017年12月、国立民族学博物館

[図書](計2件)

中川加奈子、「ネパールにおけるカーストの読み替え：肉売りを担う人々の日常と名乗りのポリティクス」、関根康正・鈴木晋介編

著、『南アジア系社会の周辺化された人々：下からの創発的生活実践』、pp.107-134、明石書店、2017年(分担執筆著書)

中川加奈子、「国家的変動への下からの接続：カドギのカースト表象の展開から」名和克郎編著『体制転換期ネパールにおける「包摂」の諸相：言説政治・社会实践・生活世界』、pp.131-164、三元社、2017年(分担執筆著書)

[産業財産権]

出願状況(計0件)

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

出願年月日：

国内外の別：

取得状況(計0件)

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

取得年月日：

国内外の別：

[その他] 辞書項目執筆

『インド文化事典』丸善出版、2017年

## 6 . 研究組織

(1)研究代表者

中川 加奈子 (NAKAGAWA, Kanako)

追手門学院大学・社会学部・准教授

研究者番号： 80782002